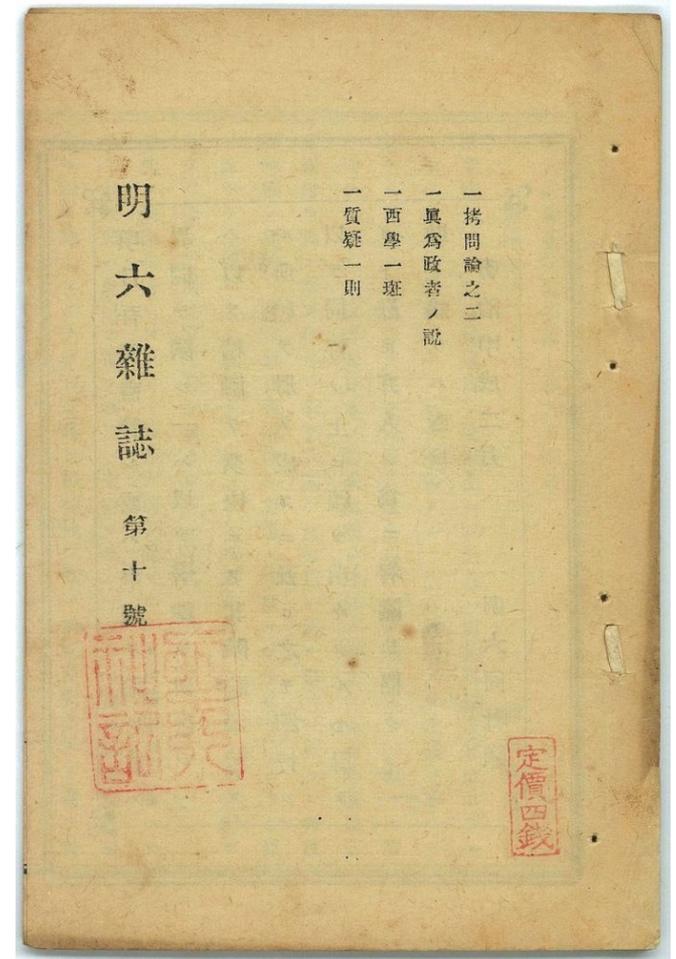


# 1、文明開化と「文学」の変容

# 啓蒙論説と戯作の動向

- 明六社
- 「文学」=学際性  
→芸術の—ジャンルに限定  
←→功利主義



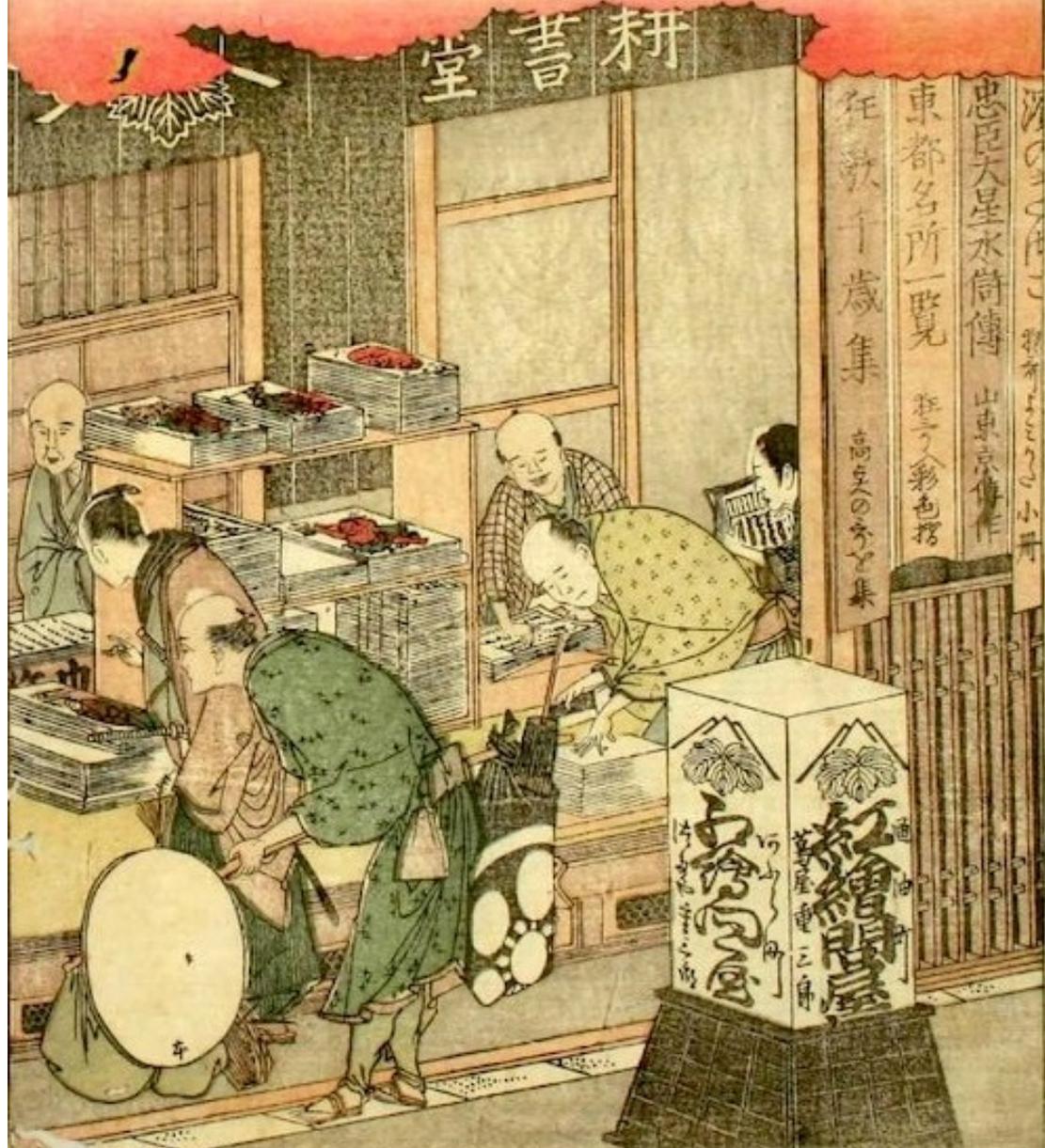
(1874年発行 明六雜誌 第十号)

# 江戸の本屋



繪草紙店

耕書堂



『画本東都遊』 1802  
 葛飾北齋画  
 蔦屋重三郎の店先

# 江戸の貸本屋

貸本屋の出現



西村重長筆 三條勘太郎・書物いろいろ (リッカー美術館所蔵)



奥村政信筆 うす物売り (リッカー美術館所蔵)



的中地本問屋(あたりやしたちほんどいや)  
 十返舎一九作画 享和2年(1802)刊



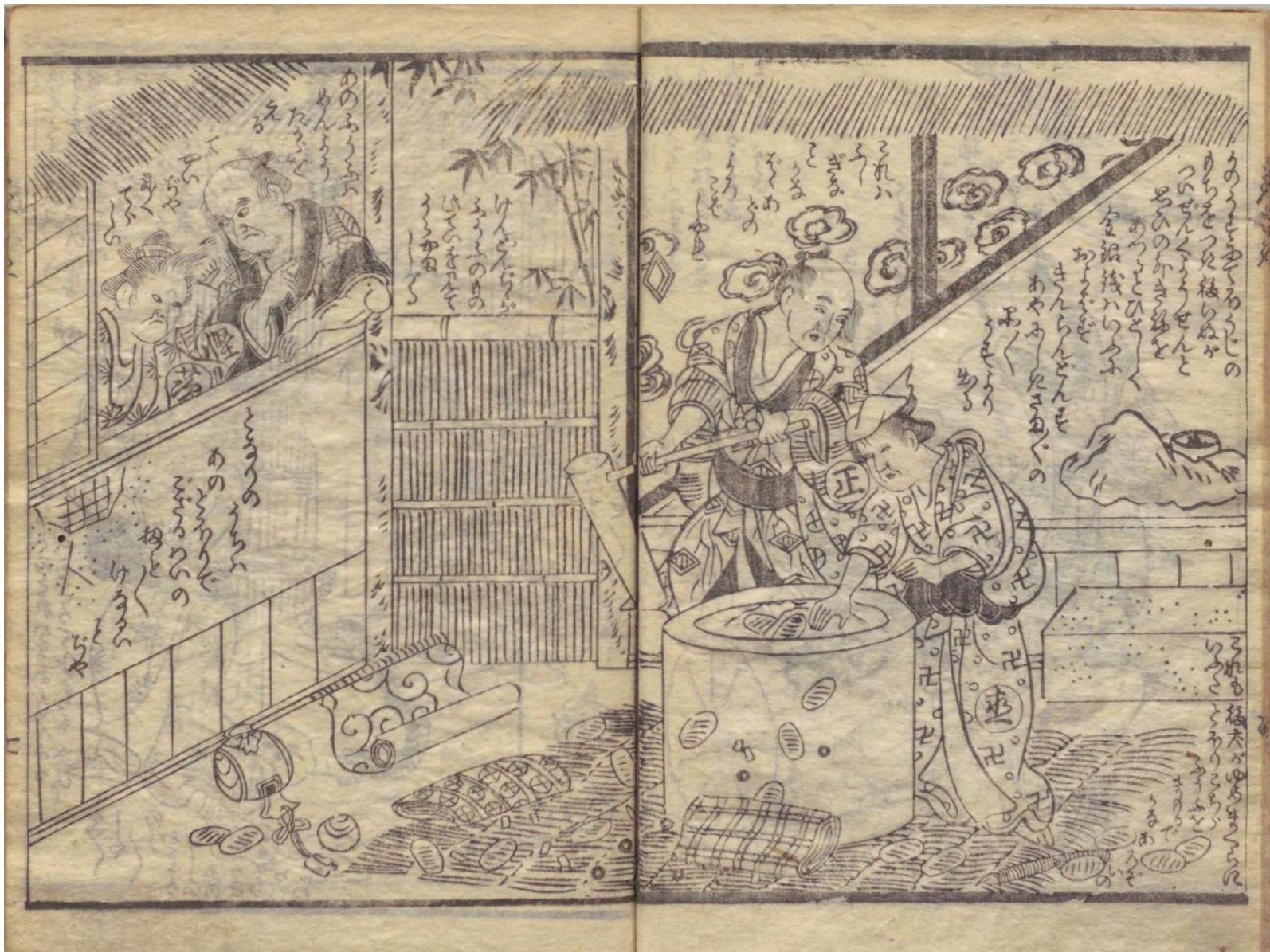
『繪本常磐草』享保15年(1730)

# 草双紙



『金々先生栄花夢』

恋川春町{こいかわはるまち}著・画 1775年(安永4)刊国立国会図書館所蔵



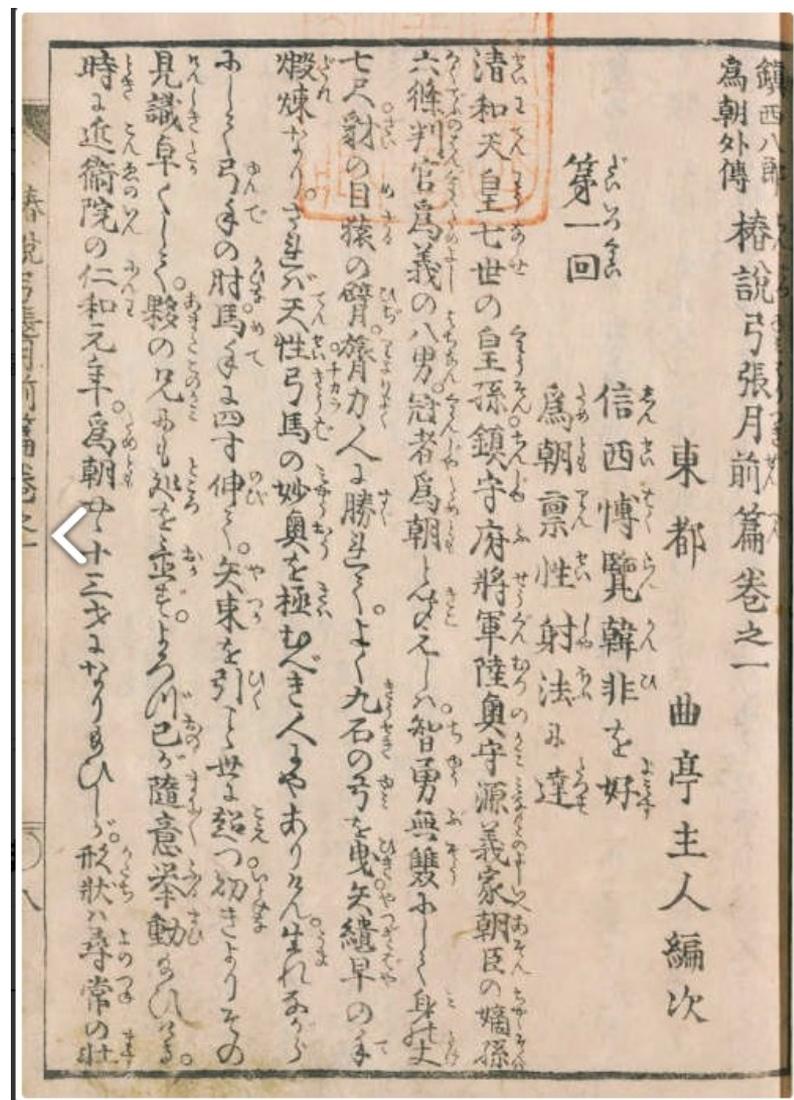
式亭三馬『花咲ぢぢ』



# 読本

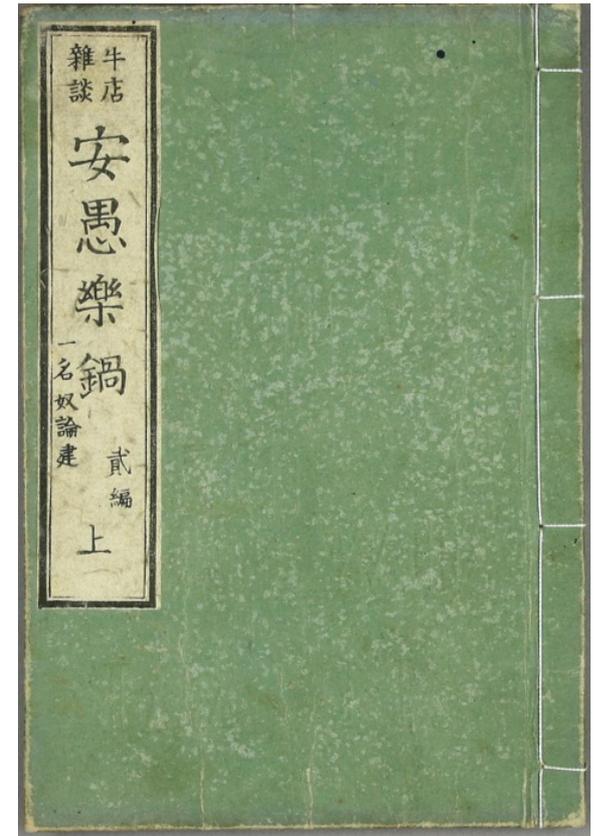


『南総里見八犬伝』巻1  
 曲亭馬琴作 1814~1842年  
 (文化11~天保13)刊



『椿説弓張月』前編 巻1  
 曲亭馬琴作 葛飾北斎画 1807年(文化4)刊

# 仮名垣魯文『安愚楽鍋』、明治4(1871)



- ・開化の世相
- ・虚実皮膜
- ・風刺

# 三条の教憲

- 一、敬神愛国ノ旨ヲ体ス可キコト
- 二、天地人道ヲ明ニスベキコト
- 三、皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムベキコト

→戯作小説家・芝居の役者なども「人民啓蒙」の「教導職」として動員



# 仮名垣魯文『高橋阿伝夜叉譚』1879



○ 結言

去る明治九年八月二十六日の夜、淺草御森前旅人宿大谷三四郎方まで後藤吉藏と殺害  
 なし、若母高橋お傳の事跡、其口供に因て果て厭勝願末の既略を知るゝ足るを以て  
 諸新聞此を基き各記者筆を採つて長城新聞及女と雖も彼口供の如きハ毒婦ヲ殺才  
 詐欺とのみ旨とし現に明々たる法庭を暗冥さんとするゝ有て遠く其實を告ぐるゝ至  
 らず然れ共官の明鏡毒婦が胸裏と聽定るの証ハ衆審判斷決て同十二年一月三十一日  
 東京裁判所にて左の如く申し渡されたり

群馬縣下野岡利根郡下牧村

四拾四番地平民丸右衛門妻女

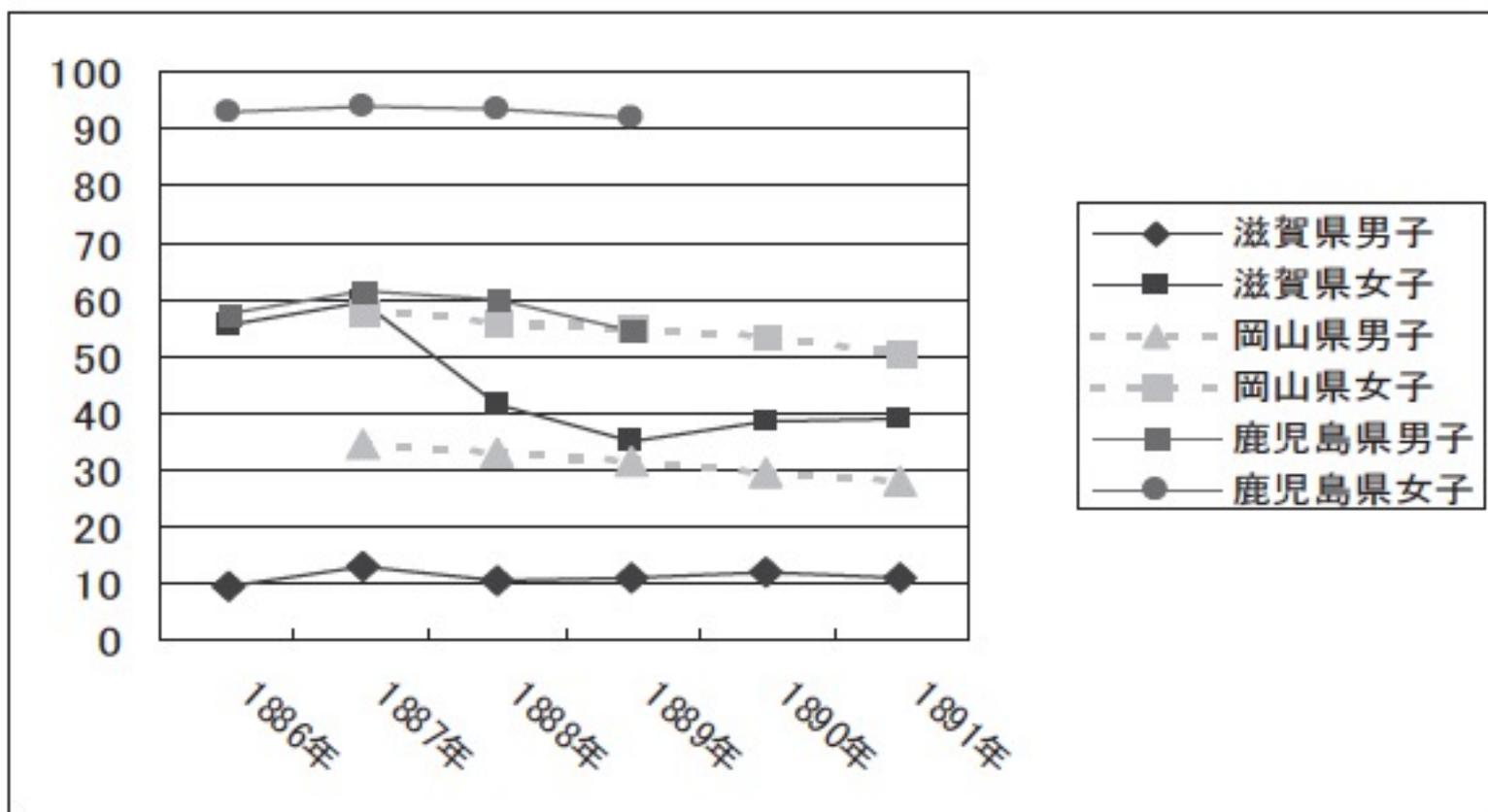
高橋おでん 二十九年二月

其方儀後藤吉藏の死ハ自死として己の所爲とわらざる旨所申し立ると雖も第一右  
 吉藏を殺害せし云々の書儀及び當所管見分業等ハ明治十年八月十日札幌開判事ハ於

# 識字率

- 明16年に調査(文部省編『日本教育史資料』明25)
- 全国で15560校
- 男子のみ5180校 男女とも8636校
- 平均男子42人 女子17人
- 男子に対する女子比率 関東61% 近畿41% 九州10% 全国平均27%
- 教科書は往来物 庭訓往来、商売往来、百姓往来、女大学

図1 自署の不可能な者の県別、男女別比率



<出典> 文部省『帝国文部省年報』各年度版から作成

自著: 自分の姓名を筆記できる者

表1 壮丁教育程度調査（1899年-1930年）に見る成年男子（20歳）の学力程度

	高等小学校 卒業	高等小学校 卒同等学力	尋常小学校 卒業	尋常小学校 卒同等学力	稍々読書算 術ヲ為シ得 ル者	読書算術ヲ 知ラサル者
1899年	6.2	4.9	29.4	8.9	26.0	23.4
1900年	6.5	4.9	30.6	9.5	25.5	21.7
1905年	14.1	8.5	40.0	8.7	14.4	10.9
1910年	20.8	9.3	41.9	7.0	11.3	4.3
1915年	25.3	9.2	39.9	7.9	9.5	2.2
1920年	29.8	2.9	42.9	12.7	2.2	1.2
1925年	35.9	2.3	41.7	9.0	0.8	0.9
1930年	46.6	3.2	33.1	5.3	0.3	0.5

<出典> 陸軍省統計年報各年度版

←——非識字者——→

# 近代へ

- 木版印刷→活版印刷
- 新聞:小新聞
- 「つづきもの」
- 貸本屋の衰微
  
- 均一的な読書→多元的な読書
- 共同体的な読書→個人的な読書
- 音読(素読と絵解き)→黙読

(前田愛『近代読者の成立』、1973)

# 翻訳小説と政治小説

- 翻訳小説
  - 漢文訓読体
  - 文化的差異→日本語の工夫
- 政治小説: ナショナリズム・自由民権
  - 国際性内包
  - さまざまな文化の融合
  - 漢文脈＋西洋文化・情報
  - 漢文訓読体

# 『小説神髓』と『当世書生気質』

- 1883 概ねまとめ
- 1885 3-5.「假作物語の変遷」『中央学術雑誌』1,2,5→2章
- 5.「詩歌の改良」「粹論緒言」「粹の釈義」『読売新聞』
- 5.「小説神髓拾遺、時代物語の論」『中央学術雑誌』
- 6.「粹の活用第一」『読売新聞』
- 8.「小説論一斑 小説の主眼」『自由燈』
- 9.(-1886.4) 9分冊 松月堂
- 1886.5 上下二巻
- 1885.4『当世書生気質』の稿をおこす。
- .6(-1886.1) 17冊 晚青堂
- 1886.4 前後二巻本
- 1886.8 合本一冊



# はしがき

- 稗史(小説、物語)
- 傍観の心得＝写真(写実)←→勸善懲悪
- 訓戒の料←→模範
- 読者輩の心
- 美術(芸術)

趣向は馬琴京田をふんまへ文章は三馬春水を気取りありとあらゆる書生の社会の情態をばおもしろおかしく理屈つぽく移し出したる臭草紙でござぬ子弟を遊学させる地方の父兄は事に一本を購ひ求めて子弟を規誡するに鑑となしたまへや  
(『中央学術雑誌』 広告18.10)

牡丹園の  
芸妓 田の次

芳原の娼妓  
貞鳥

新造阿秀



梅  
枝  
園  
繪  
馬

読売新聞



見聞の中へ何れもいふに違ふ

第九卷

坪内雄飛著

新編

浮雲

第二篇

東京金港堂梓

坪内雄飛著

新編

浮雲

第一篇

東京金港堂梓



小供の馴れおは  
早いりのを聞よあ  
く菓子ツをニツに  
割つて喰べもほご  
睦とあつても合ふ昔





それぞうどう  
と譯て「アホ  
田さん聞てお呉ん  
なさいか」あん  
です。

田

# まとめ

- 近世から近代へ
- 読む行為：音読から黙読へ
- 近代文学の出発
- 西洋文学の移入と困難